

琉球大学学術リポジトリ

洗剤のえらび方と洗い方

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石垣, 信子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20014

洗剤のえらび方と洗い方

夏になりますとどの家庭でも、洗濯の量や回数
が涼しい時期に比べて増えて参ります。最近では便
利な洗剤が出現しておりますので、家庭での洗濯
もずい分楽になつてはいますが、それでも各家庭
で洗濯に費やす時間とか、エネルギーは中々大き
いものです。そこで、今月は、その洗濯に使われ
ている洗剤のえらび方や、より効果的な使いの方
法について書いてみましょう。

洗剤について

現在一般家庭の洗濯に使われている洗剤には大
きく分けて二つの種類があります。その一つは「石
けん」で、古くから洗濯に使われています。もう
一つは新しいタイプの洗剤で、いわゆる合成洗剤
と呼ばれております。俗に「洗剤」とか又は「粉
石けん」とか呼ばれているものは主にこの種類を
指しています。此の二つのタイプの洗剤の特長を
並べてみますと次のようになります。

(1) 石けん (アデカ、ライオン、ゲンブ) (アナポリスノー 等)

代表的なものは固型の石けん、粉末とか鱗片
状のものもあります。

石けんの特長としては

イ、強い洗淨力を持っています。どんな石けんでも水に
とけるとアルカリ性になります。このアルカリ
分が実は汚れを落すのを助けます。したがつてア
ルカリ分の強い石けん程洗淨の効果があり、木綿
や麻の様にアルカリに強い繊維の洗濯には最適で
す。

ロ、低温では中々とけません。石けんがよくとけて、洗
剤として効力を十分に發揮するためには用水の温
度が高くなければなりません。低い温度もしくは
冷水では石けんが十分にとけずに不経済であり、
そのためにゴソゴソ揉む結果となります。

ハ、硬水によくとけません。硬水では石けんかすが
出来るので洗淨の効力を弱くして不経済である
ばかりでなく、石けんかすが布につくと色が黄色
くなつたり、硬くなつたりします。

(2) 合成洗剤 (モノゲン、エマル、ワンダブル) (スーパーサス、タイド、リンゾーブルー 等)

衣類の洗濯には主として粉末の状態です。販売され
ております。此の種の洗剤の特長として

イ、水にとけると中性です。したがつて、アルカリ分
繊維をいためるということがありません。

ロ、冷水や硬水にも容易にとけます。したがつて水によつ
て洗淨力が左右されませんし、又石けんかすが出
来ないので布を悪くすることがありません。

ハ、油性の汚れを非常によく落します。したがつてこの種
の洗剤は衣類の洗濯のみでなく、食器を洗うのにも
よく使われます。但しこの性質は一面使う人の手
を荒す結果にもなります。

洗剤の使い方と洗い方について

洗剤の分量は余り沢山使つても効果があがらない
ばかりか、却つて能力が低下します。用水量の量に

対して○二一〇、三パーセント位が適當な分量で
す。大体タライの量の水に対してコップ半杯の
割合です。石けんを使う時は、ブラシでこすりな
がらとかして十分にかきませ、一面に泡立つ程度
の洗濯液を作ります。合成洗剤では特に泡立ちの
ひどいものや、泡立ちの少ないものもあつて、泡
立ちだけで判断することは出来ません。

本洗いに先立つて水洗いを行なう事は常識にな
つています。これは布にごく軽くついているごみ
を水で落したり、水にとける汚れをとかしたりす
るために行なうのですが、水洗いは出来るだけ手
早くする様になります。ただ水に浸しただけで長時
間おくと、汚れが内部まで入りこみ、本洗いでか
えつて落ちにくくなる場合があります。

石けんでも合成洗剤でも水にとけて始めて効力
があらわれるのですから、必ず湯にとかしてその
中に洗たくものをつけて、出来るだけ自動的に汚
れを落すように心がけたいものです。色の丈夫な
ものならば十五分間位つけておいた方が汚れがお
としやすくなります。洗い方については次の様な
方法があります。(洗ひ方の基準表及び①②③④
を参照)

(イ) もみ洗い (1 図)

タライで洗たくする場合は手もみになります。洗
濯板を用いて板もみをするや生地をいためること
が多いから、人絹、スフ、毛類には使えません。

(ロ) つかみ洗い (3 図)

汚れを押し出す洗ひ方で、洗濯物を液にひたした
まま、左右から柔かく布をつかみよせてはひろげ
るようにして液を流動させて汚れを除く方法で
す。布地をいためないで、毛織物やスフ、人絹、
絹のような薄物に適します。

(ハ) ブラシ洗い (4図)

板の上に布をひろげ、液を流しかけながらブラシで汚れをはき流す方法です。なるべくこしこしこすらぬように、ブラシは軽く浮かせるようにして洗います。これは染色のさめ易いもの、縮みやすいものにはよく応用されます。ししゅうのあるものや朱子などには向きません。

(ニ) つまみ洗い

局部的に汚れた部分だけをつまみ上げて洗うときの洗い方です。



2図 こすり洗い



1図 もみ洗い



5図 踏み洗い



4図 ブラシ洗い



3図 つかみ洗い



8図 ヘラ洗い



7図 たたき洗い



6図 振り洗い

洗剤のえらび方の基準

織 維	洗 剤	最高温度	洗 い 方	しほり方	干し方
木 綿、 麻	石 け ん 洗 たくソー ダン	80℃	手もみ、板もみ ハケ洗い	手しほり	日 光
レ ー ヨ ン	石 け ん 合 成 洗 剤	60℃	押し洗い 軽い手もみ	押ししほり 軽い手しほり	かけ干し
絹	良質石けん、ふのり 合 成 洗 剤	60℃	押し洗い 軽い手もみ	押ししほり 軽い手しほり	かけ干し
羊 毛	合 成 洗 剤	35℃	押し洗い つかみ洗い	押ししほり	かけ干し
ア セ テ ー ト	合 成 洗 剤	60℃	押し洗い 軽い手もみ	押ししほり	かけ干し
合 成 織 維 ナイロン、ビニロン等	合 成 洗 剤 良 質 の石けん	40℃	押し洗い つかみ洗い 押し洗い	押ししほり	かけ干し

(註) 硬水を洗濯用水に使用する場合には石けんは適当でない

(木) おしつけ洗い

洗濯液の中で品物をタライの底に上から軽くおしつける洗い方で、地質のじょうぶな敷布とか毛布、カヤのようなものを洗うのに適しています。足で踏み付けて洗うのも効果的です。

(へ) 振り洗い (6図)

タライの中で布を前後左右に振りながら洗う方法です。スフ、人絹、毛織物では布がのびる欠点がありますが、薄くて弱いものや色のさめやすいものには好ましい方法です。

(ト) たたき洗い (7図)

汚れた部分に直接石けんをぬりブラシの背か手でたたいて汚れを強く押し出す洗い方で、着物のエリやスソ、タビの裏などを洗うのに適します。この洗いは割合に生地や色合を害しないので、人絹やスフなどにも使えますが、直接石けんをぬるときには、あまり強くぬりつけないように注意します。

(チ) ヘラ洗い (8図)

ワイシャツのカフスやカラーのようなスジになつた汚れはこの方法だときれいになります。裁縫用のヘラやこれに似たものを使えます。

本洗いの後のすすぎで特に気をつけたいのは温水を用いて洗った後にいきなり冷水ですすぎを行なうと、ふくれた繊維が洗剤を含んだまま縮んで、いくらすすぎをくり返しても中々落ちません。合成洗剤は布地に残つていても、色が変わつたり、布の組合わせを損ねたりすることはありませんが、石けんを使う場合には、

すすぎの温度も大切です。多量の水で一度だけすすぐよりは数回に分けて洗つた方がよいのは云々までもありません。

しほり方や乾燥方法は、さきにあげた表を参考にして下さい。ねじるしほり方や日光による乾燥は木綿や麻以外には適しません。

以上洗剤について、それから洗濯の方法について述べましたが、どういう洗剤をえらび、又どういう方法で洗うかということは、洗う物の性質とか汚れの種類、あるいは用水の性質などによつて決められることが大切です。

(石 垣 信 子)

(五頁よりつづき)

れも胃液や血液その他の組織にあつて、消化作用は勿論のこと、その他の生理作用になくしてはならない重要な役割を果すものです、しかし普通の養豚飼料には必要量だけ含まれていないので、どうしても飼料にある程度添加してやらなければならぬことになり、それでは一体どの位与えたらよいかということになりますが、普通体重一〇〇キロ当り一日五〜六グラム位やればよいということになつております、但し夏青草類を多く利用する時には一〇〜二〇グラム位与える必要があります、勿論残飯とか醬油粕等を利用する場合は不必要です、このことが農家ではほとんど励行されていないように見受けられます。

あるところでは、豚の飼料も味づける必要があるのかと、けげんな顔をされる方がありましたが、こういう飼養知識では、豚公もいよいよ浮かばれないと、同情したくなります。

(つづ) (石 垣 長 三)